

別紙標準様式（第6条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度 第2回枚方市ポイント制度事業者選定審査会
開 催 日 時	平成30年6月15日（火） 開始時刻 14時00分 終了時刻 18時50分
開 催 場 所	枚方市役所 別館4階 第3・4委員会室
出 席 者	会 長：久 隆浩 委員 副会長：安留 誠吾 委員 委 員：小西 雅晴 委員、小林 敬 委員、松井 克浩 委員
欠 席 者	—
案 件 名	・ヒアリングの実施（公開） ・提案審査の実施（最優秀提案者及び優秀提案者の選定） ・答申
提出された資料等の 名 称	資料1 業務提案書 資料2 枚方市ポイント制度事業者選定プロポーザル審査 基準及び審査シート 参考資料1 第1回枚方市ポイント制度事業者選定審査会 会議 録（案） 参考資料2 枚方市ポイント制度システム構築・運営業務委託 に係るプロポーザルのヒアリング実施要領 参考資料3 枚方市ポイント制度事業者選定審査会のヒアリン グの傍聴について
決 定 事 項	・業務提案者に対するヒアリングを実施し、審査において最優秀 提案者及び優秀提案者を選定した。 ・枚方市ポイント制度事業者の選定について、答申を行った。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開 但し、枚方市情報公開条例第5条に規程する、非公開情報が含ま れる事項に関する審査等については非公開。
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	本審査会の答申後に公表
傍 聴 者 の 数	5人
所 管 部 署 (事 務 局)	総合政策部 企画課

審 議 内 容

【1. 開会】

会長

それではまず、事務局より委員の出席状況と配付資料の確認をお願いいたします。
よろしくをお願いいたします。

事務局

まず、本日の出席委員は5名で、枚方市附属機関条例に基づき、この審査会が成立していることをご報告申し上げます。

続いて、配付しております資料の確認をお願いいたします。

「次第」、裏面に「委員名簿」、「資料1」から「資料3」、また、「参考資料の1から3」を配付しております。

過不足等がございましたらお知らせください。

事務局からの報告は以上です。

会長

はい、ありがとうございます。それでは、早速ではございますが、次第2. ヒアリングを実施したいと思います。ヒアリングの進め方について、事務局より簡単に説明をお願いします。

事務局

本日のヒアリングですが、提案者名を伏せた形で行っていただきます。

まずお手元に審査シートがございますが、そちらをご覧ください。

審査シートの上段にA-1からE-1と記載されています。

本日のヒアリングの順番でございますが、記号順ではありませんので、ご注意願います。

具体的にはヒアリングの順番といたしまして、一番目にA-1、二番目にD-1、三番目にB-1、四番目にE-1、最後五番目としましてC-1となりますので、よろしくをお願いいたします。

続きまして、ヒアリングの流れについて、始めに提案者から業務提案内容について説明いただき、その後、審査委員から提案者に対して質問を行っていただきます。

各提案者の説明時間を15分以内、委員からの質問時間は20分程度を予定しておりますのでお願いいたします。

また時間管理につきましては事務局で行い、説明時間の終了2分前にチャイムを1回、終了時間に2回鳴らします。

この段階で説明が途中であっても終了といたします。

また、質問時間の終了予定 1 分前にもチャイムを鳴らし、時間をお知らせしますが、こちらは進行上の目安とするもので、必ず 20 分以内で終了しなければならないものではございませんので、よろしく願いいたします。

事務局からは以上です。

【2. ヒアリングの実施（公開）】

会長

はい、ありがとうございます。

委員の皆さんから、何か確認などございませんでしょうか。

それでは、最初の提案者の入室をお願いします。

事務局

最初の提案者はA－1 となります。

よろしく願いいたします。

(提案者A－1 入室)

説明時間は 15 分以内でお願いいたします。終了 2 分前と終了時間に事務局よりチャイムを鳴らしますので、説明を終えてください。

それでは始めてください。

(提案者A－1 説明)

会長

はい、ありがとうございます。

それでは各委員からいくつか質問をさせていただきます。

委員

システムの話はよくわかったのですが、今回ソフトな面としてボランティア活動の活性化、あるいは高齢者の外出支援の促進といった目的があるのですが、このあたり、御社としてはどのような提案を考えられていますでしょうか。

提案者(A－1)

先程も会員の方の属性等がわかるとお伝えしましたが、市の目的に合わせたターゲットの方がおられると思いますので、まずそういったターゲットの方にアプローチをする。また、市内に施設もあります。なかなかメール等は見られない高齢の方もおられますので、そういった施設の活用や、交通機関との連携という部分で交通

機関を活用して、交通機関を使って外出するとインセンティブが付きまるといった部分で、高齢の方にもご活用いただきたいと考えております。

委員

商業系のお話は実績もあり強いと思うのですが、一方で市民活動団体でのボランティアの受け入れという部分もターゲットのひとつであると思います。そのボランティア団体さんは端末もお持ちでないですし、協力店舗でもない訳ですよ、そういう所のアプローチは何かお考えがありますか。

提案者(A-1)

我々の端末を提供することも可能ですし協力店舗になっていたただかなくても、枚方市のポイントサービスとして対象とするボランティア活動であれば端末を持っていけます。ポイントはあくまでもフックでボランティア活動の目的ではないと思いますので、ボランティア活動にどう参加していただくかという部分で端末を使うのと、我々の媒体や場所を使って告知をするという形でアプローチができるのではないかと考えております。

会長

はい、ありがとうございます。
他にございますでしょうか。

提案者(A-1)

補足でご説明をさせていただきます。

市の中のボランティア活動のご支援につきましては、弊社で運営している商業施設がございます。そこに毎日ご高齢の方も含め、1~2万人の方にお越しいただいております。施設店舗でのボランティア活動の告知、そして場所の受入れ、開催の支援、そういった事を現地でもさせていただいておりますので、それをさらに広げていくということで、ご支援ができると考えております。

会長

はい、ありがとうございます。

委員

すみません、教えていただける範囲内で構わないのですが、今ご説明いただいた中でカード会員が枚方市の人口の中でも6割近くいると、加盟店舗も277店舗とあるというお話しでしたので、市のポイント制度のカード保有者を広げていくという意味では有効なのかなと感じました。そういった中で、今の会員さんの年齢構成や、店舗もどういう店舗が多いのか教えていただければと思います。先程、委員より質

問もありましたが、ターゲットとなっている枚方市の高齢者の外出支援、健康増進、子育て環境という部分は外せないとおもっております。そのニーズとヒットしているのか確認をさせていただきたい。

提案者(A-1)

まず会員の方の年齢といった部分ですが、性別・年齢ともに、ある程度人口クラスターに沿った構成になっています。極端に若い人が多いとか、そういった偏りがない構成になっております。店舗は、現状でいうと多種多様に渡っております。店舗数でいうと、日用品を買うようなスペースや、ガソリンスタンドといった部分がボリュームとしては多くなりますが、全体としては多種多様に入っていると自負しております。

委員

例えば、枚方市の中でも商店街がいくつかあります。すべての商店街、商店主に参加していただくのは難しいかもしれませんが、商店街と連携したような取り組みを想定出来るのでしょうか。

提案者(A-1)

もちろん出来ますし、全国でそういった商店街と取り組んでいる事例も年々増えてきていますので、今回、枚方市ポイントに参加させていただくのであれば、商店街としっかり密に連携したサービスを展開したいと考えております。

委員

確認になりますが、システムの構築の図でポイントシステムと右にあるのは、既存のシステムを利用して、という理解でよいでしょうか。

提案者(A-1)

はい。

委員

セキュリティレベルですが、仕様書(案)に記載のあったレベルを満たしているとは思いますが、確認をさせていただきたいと思います。

提案者(A-1)

満たしております。詳細についてはスライドに出来ておりませんが、必要であればこういった形で満たしているというものを、別途資料でお出しすることも出来ます。

委員

事業費の積算でいくつかお聞きしたいことがございます。
総額が記載されておりますが、この額は消費税抜きと考えてよろしいでしょうか。

提案者(A-1)

消費税込みです。

委員

例えば、初年度の三番目の項目に端末代が500万とありますが、こちらの500万の中にも消費税が含まれているのでしょうか。

提案者(A-1)

はい。

委員

わかりました。

通常、500万というコストがあつて、それに消費税を乗せて総額が決まると思うのですが、そうではなくて内税として500万に入っているということですか。

提案者(A-1)

当初、税抜きで試算していたのですが、募集要項の上限額が税込みであるという前提があつたので、すべて税込みを加味して計画を進めております。

委員

はい、結構です。

今までのご説明の中で、既にシステムは開発をしており、それに乗せるようなイメージをしていたのですが、この推移というか計画の経緯をみると枚方市独自仕様への対応額が見えてこないです。それは初年度だけに発生して、二年度以降は出てこないという性格のものと思われるのですが、その点に関してはいかがでしょうか。

提案者(A-1)

はい、考え方はその通りでございます。

弊社が持っているポイントシステムがありますが、今回はICカードを認証とするということで、ICカードとIDを突合させるための仕組みを作らないといけないというのが一番です。

二番目の部分はその対して、同じポイントサーバーとするのですが、色分けをする必要がある。既存の我々が持っているポイントと違う新たなポイントを色分けするアプリケーションを作るとというのが二番というところで、この一番と二番を最

初に作っておけば、次年度以降かからないコストとなります。こちらが初期でかかる費用となっております。

委員

それが初期コストとなりますが、それを初年度だけに上げないで二年目以降に分割しているという理解でよいですか。

提案者(A-1)

そうです。どうしても一年目にコストが膨らんでしまうので、そこを分割計上していくことで、二年目、三年目、四年目に分散させるということで分割計上しています。

委員

今のお話の中で、二番目の端末アプリケーション開発費という内容がピンと来なかったのですが、噛み砕いてご説明をしていただけますか。

提案者(A-1)

今回のプロポーザルとは別に、スマホ・タブレット用の端末を用意しておりました。ただ、当初は、弊社のポイントのみ付与するという想定で、開発をしておりましたので、その端末で枚方市ポイントの対応、例えば IC カードを読み込むなどですね、そういった対応をする場合には追加開発が必要だという部分で端末アプリケーション開発費というのを乗せております。

委員

はい、ありがとうございます。

最後に、実際にオペレーティングをはじめて、管理費というか事務局対応コストというのが、項目としては九番あたりに上がっているのですが、かなり少ないのではないかと感じます。この金額の算定根拠というか前提は、事務局というのをリアルに開かないで、なんとかセンターみたいな対応をするということでしょうか。

提案者(A-1)

枚方市役所の近くに実際の運営事務局を設ける予定としております。その中で CS 対応をするのではなく、CS 対応については弊社既存のポイントのコールセンターがごございますので、そこをうまくシェアしてコストを下げしていく、生産業務にあっても弊社ポイント・弊社カードの運用部隊を活用してなるべく安く抑えるような設定にしています。

委員

はい、ありがとうございました。

委員

御社のカードというのはお店で買ったらポイントが付くといった想定で宜しいんですね。

提案者(A-1)

そうですね。メインで行っているサービスは購買に伴うものです。アクションに対して付けるという事例もありますが、一番多いのは購買に伴うポイントです。

委員

それはクレジットカードと一緒にしているものですか。

提案者(A-1)

クレジットカードと一緒にしているものもあります。

委員

今回はクレジットカードが付いたものも枚方市のポイントカードとして考えられますか。

提案者(A-1)

現状でいうと IC カードがメインとなっています。クレジットカード機能が付きハイブリッドでさらに IC も乗せるということは技術的に可能なので、ニーズがあれば検討する価値はあると思っております。現時点では費用感や内容については入れておりません。

委員

交通系 IC カードと連携との記載があるが、連携はまだされていないのですね。

提案者(A-1)

はい、しておりません。

委員

それも割と簡単に出来るということですか。

提案者(A-1)

金額はかかりますが、内容については実際にシステムを開発出来る会社と詰めてこの金額を入れております。その会社には実績もありますし、技術的には特に問題

ないと思っております。

委員

御社で枚方市以外に自治体のポイントサービス等を行われたことはありますか。

提案者(A-1)

自治体様との実績はないです。商店街と組んだポイントなどの実績はあります。

提案者(A-1)

補足で、行政さまと弊社のポイントを活用した事例はあるのですが、オリジナルポイントとして取り組んだという実績はございません。これは新たなチャレンジだと思っております。

会長

後はいかがでしょうか。

委員

先程、顧客対応の話で、CSを開設されるという話でしたが、オペレーターすべてが枚方ポイントを認識している訳ではないと思います。そのあたりはCSの中でうまく振り分けていって対応するということが宜しいでしょうか。

提案者(A-1)

そうです。電話番号も分ける形になると思いますので、CSで我々のハードサービスをわかっているメンバーに、枚方市ポイントを理解していただいて、メンバーを徐々に育てながら、いろんなメンバーで回せる想定を考えております。また、ポイントの履歴など、お客様からの細かい問い合わせに対応するには、本人であることを確認する必要があります。そういった意味で弊社のカードと紐付けていることで、問い合わせをしてきている人を特定した上で、枚方市ポイントのサービス内容についてお答えが出来ることから、弊社のカードと紐付けて、情報を見ることが出来る弊社CSのメンバーに対応させるというのが効率的だと考えております。

会長

他にございますでしょうか。

委員

交通系のICカードを使うということですが、枚方ポイントカードというのがぼやけてしまわないか。地域住民の中の認知度が上がり、そして地域を活性化するためにいろいろな取り組みに参加する、参加意識を高めるためのポイント事業というも

のが目的になると思うのですが、そのあたりは何かお考えがありますでしょうか。

提案者(A-1)

弊社のポイントサービスでの過去の知見になりますが、我々が共通ポイントを実施するにあたって、事業者様に入っていただく際に、多くの事業者様が自分の所で自分のロゴを出したい、そこで愛着を持ってもらいたい、自分の所でカードを作った人にさらに優遇させたいと仰るのですが、最終的にはサービスの内容や、そこにお客様がロイヤリティを持つかという所になります。当初そこにこだわっていた事業者様も、ある程度サービスが始まると、逆に既存のカードを使う方がコストも下がって、ロイヤリティはどこで入ってくれた会員様であってもサービスが良ければ抱いていただける。逆にロイヤリティを抱くためにより良いサービスを作るためにお金を回せるという部分で満足していただいている部分もありますので、確かに今のお話もわかるのですが、弊社としてはカード代を削減して、お客様により良いサービスを提供する方にコストを回した方が有意義だと考えております。

提案者(A-1)

補足で、基本的に弊社のカード会員様を活用しながら使っていただくという効率性を優先させております。今すでに23万人の方がお持ちですので、こういったサービスが始まりましたという告知を、誰よりも素早くお伝えすることができますし、参加を募ることもできます。電車沿線でもありますので、非常に高い確率でICカードもお持ちと思いますので、そこを紐づけることで、行政が始めるポイントを楽しく貯めていただくことが出来ますよと、身軽にスタートできると思っておりますので、この方式が今の所一番ベターだと思っております。

委員

もう一点よろしいでしょうか。カード会員が23万人おられるということですが、実際に稼働しているのはどの位ですか。

提案者(A-1)

一年に一度も使われないカード会員はカウントされませんので、一年以内に100%使われています。これは頻度の話しですが、一ヶ月で7割位の方が稼働されている実績ですので、16万人位の方は確実に毎月使われているという実感を持っていただければと思います。

会長

他はいかがでしょうか。

それでは、これで質疑応答を終了させていただきます。ありがとうございました。

(提案者 A - 1 退室)

会長

それでは、次の提案者の入室をお願いします。

事務局

それでは次に提案者ですが、D - 1 になりますのでご注意ください。

(提案者 D - 1 入室)

事務局

説明時間は 15 分以内でお願いいたします。終了 2 分前と終了時間に事務局よりチャイムを鳴らしますので、説明を終えてください。それでは準備をお願いします。それでは始めてください。

(提案者 D - 1 説明)

会長

はい、ありがとうございました。

それでは質疑応答ございましたら、お願いいたします。

委員

事業費の内訳の所で質問をさせていただきます。上から二つ目の管理支出という所でお伺いしたいのですが、総合管理費から運営管理費まで合わせると最終的に平成 34 年度で 1,870 万円程度になります。先程のご説明の中では現地事務所を立ち上げる。それは市民対応が最重要だと考えておられるからだと、顔の見える事務局にしたいということなので、それは本当にいいことだと思うのですが、それを加味しても 1,800 万円という金額は削減できる余地があるのではないかと感じたのですが、いかがでしょうか。

提案者 (D - 1)

運用しながらどこが削減できるのか、また反対に足りないのかということが出てくると思います。実績から考慮して、最低これ位はかかるという経費を提案で出しています。運営については一部地元での雇用を考えていますが、この窓口の対応が土日也要るのか、もしくは夜間何時までやるのか、そういった所を考えた時に、週休は一日で朝は 9 時から 18 時まで、もしくは 19 時まで対応する人件費を踏まえて計上しております。この辺を圧縮することで人件費は変わっていくものと考えております。

委員

一番上の所の総合管理費、これについてはどれ位かかる見込みですか。

提案者（D－1）

これに関しましても、ひとりの人間を張り付けると考え、月の給料がおよそ 30 万程度と想定し、経費を算出しております。

委員

はい、ありがとうございます。

続いてもうひとつお聞きしたいのですが、説明の最後に見込の数字がひとつ間違っていたとありましたが、桁がひとつ多いということですね。

提案者（D－1）

はい、そうです。申し訳ないです。

委員

みなさんも含めて確認したいのですが、ポイント発行手数料は、例えば、三年目で 3,600 万円と出ていますがこれが一桁多い金額ということですね。

提案者（D－1）

いえ、違います。今、お示ししている店舗利用額が 19 億 2,000 万になっているのですが、これが 1 億 9,200 万円の間違いです。

委員

それを踏まえてお聞きしたい所がありますのでよろしいですか。手数料 3,600 万円の出し方で 300 万円の 12 ヶ月で 3,600 万円と。その 300 万円の出し方が店舗利用手数料を 0.5%とかけているものだと、説明がありました。そうしますと店舗利用手数料と言うのは 6 億になると思うのです。

提案者（D－1）

店舗利用手数料というのは、例えば 1,000 円のを販売された時に付けるポイント数と、その手数料を 0.5%で算出しています。ですので、下にあります 1 億 9,200 万というのが店の売上げの総額になります。それに対して手数料として 0.5%をとっていきたいと考えておりますので、実際には下にあります年額で 9,600 万という計算をしております。

委員

すみません、三年目の所で。

提案者（D－1）

三年目の所も同じなのですが。

委員

300万円の出し方という意味ではいかがでしょうか。

提案者（D－1）

月の利用平均、奈良市をベースに考えてさせていただきまして、ひとりあたり月に平均4,000円です。こういう金額を利用しているとなっております。0.5%がひとりあたり徴収できる手数料の金額ですので、利用者数が1万5千人という所で手数料としての金額の合計金額が300万円となります。

委員

そこなんです。4,000円に1万5千人をかけると6,000万になるのでほぼ一桁違うんです。今は15万をかけていると思うんですね。

提案者（D－1）

ここで計算しているのは1万5,000人に4,000円かけている0.5%という手数料の分だけを算出して出しております。

委員

私もそういう考えのもと、一桁違うのではないかと思い、質問させていただきました。

提案者（D－1）

計算を間違っているかも知れませんが単純に言いますと、だいたい300店舗でどれ位溜まるのかという計算をしているのですが、4,000円でひとり200円の手数料を考えている訳ですね。200円の手数料が1万5,000人と考えておりますので、300万円となり、12ヶ月で3,600万円としています。

委員

そこは利用者数ではなく、参加人数をかけていいのですか。

提案者（D－1）

延べで考えております。

参加人数的には1万5,000人という利用者数と考えております。

委員

ですので、1万5,000人ではなくて、今の計算の元は15万人になっていると思います。

提案者（D-1）

参加人数が15万人でその内の1割が使うという計算をしています。その1割の方々が毎月4,000円の物を購入されたら200円の手数料が入るんですね。その200円の手数料が月にすると300万になります。それが12ヶ月で3,600万円という計算になっております。

委員

考え方はわかりましたが、使っている数字が違うのではないかと思います。ありがとうございます。

会長

他にいかがでしょうか。

委員

一からのスタートになると思うのですが、まずは市民の方に広く事業を知っていただいて、登録していただく、カードを持っていただくという部分がスタートの大事な所になると思います。奈良市さんでは3人に1人という実績を既にお持ちなのですが、枚方市は人口40万人で初年度目標は3万人、人口の1割にも満たないというレベルです。それが2年目9万人になり3年目15万人に増えていく想定になっています。奈良市さんの取り組みも踏まえて、どのような工夫をされて会員を増やす、イコール事業に参加していただく市民の方を増やす工夫をどのようにされたのか。そのためにはいろんな連携を駆使していかないといけないと思います。今、説明の中にもありましたが、御社の従業員にはこの地域にお住まいの方もおられるし、出来ますという話だったのですが、枚方市は面積も広いですし、それだけでは難しいと考えますので、それに対して連携する仕組みや想定されているものがあれば教えていただきたいと思います。

提案者（D-1）

まず参加者の集め方としては、利用する店舗を拡散するというのが重要で、使える場所でそのまま登録が出来る、ポイントカードが取得出来るというシチュエーションが非常に重要です。他の自治体さまの事例では、受付窓口でしかカードが発行できないということで、参加者が伸びなかったということも聞いております。使える店舗でカードを取得出来るというのが非常に重要だと思います。そのうえで、最

後のページに、枚方市ポイント事業協議会と仮で書かせていただいているのですが、弊社だけではなく枚方市の店舗さま、民間企業さま、大学さまを含めて一つのコミュニティとしてまちをつくっていくことを売りにして、事業展開と一緒に考えていくコンソーシアムのような形態で実施できればと考えております。

実例としましては、お店での会員募集、またイベントでの会員募集、特に現状はインターネットを使ったメールでの会員登録等いろんな形で増えています。どのようなイベントをするかにもよりますが、市のイベントでもかなりの人数が参加されておりますので、そういった機会をすべて会員登録に活用していきたいです。

会長

他にいかがでしょうか。

委員

スライドの8頁にシステム概要図がありましたが、右下に将来構想ということで、まだ具体的には上がっていないと思うのですが、医療施設や災害情報とあります。何か具体的な考えがございましたら、説明していただければと思います。

(提案者D-1)

医療施設に関しましては、これは実際に話し合いをしているところですが、歯科医院、歯医者で利用できるのではないかと。また、医療と書いておりますが福祉関係ですとか、そういった所でも使えるのではないかと、という話を奈良市と進めております。

委員

使えるというのは、ポイントを使えるということでしょうか。

提案者(D-1)

はい。そうです。また、加盟店の中に薬局が入っているのですが、処方箋を扱っている調剤薬局の処方薬で、ポイントをつけることはできないが、割引には使えるという活用をしております。そのような形で応用できるのではないかと考えております。

会長

他にいかがでしょうか。

委員

まず一点目ですが、先ほどのご提案の中で奈良では問題なく進んでいるとお話がありましたが、奈良の経験を踏まえてこういう所が大変だった。それに対してどの

ように乗り越えてきたのか、という部分を実例をお持ちだと思いますので、少し聞かせて頂ければと思います。

提案者（D－1）

奈良市で一番大変だったのは、実はオリジナルのポイントカードを発行しておりません。お手持ちのカードを登録に使わせていただいております。例えば、ICOCAとかSUICAとかPITAPAとかイオン系のICカードを使って、それをポイントカードとして登録して使用するという仕組みにしております。私の家内もそうですが、ポイントカードで財布が分厚くなっているのをよく見ます。一枚のカードで街中全部使えれば、忘れることもないだろうし、便利だろうと。一番普及している交通系のカードを使って実施しています。それを実施したために、貯まったポイントをそのまま使えたと勘違いし、改札口を通過される。電車、バスに乗ろうとされる方からのクレームが大変多かったです。実際にはカードの中で連携しているのではなく、カードを登録用に使っているだけですから別の物です、と説明するのに当初は大変戸惑いました。ただ、現在ではそういう問題は全くなくなりました。それは、現在では会員が会員を紹介してくれる。紹介された方が初めての方に説明をさせていただきますので、現在ではそういったことがなくなっております。

委員

はい、ありがとうございました。もう一つ、五六市の話で告知の話がありましたが、奈良市の経験も踏まえてお伺いいたします。例えば五六市でボランティアをされた方が、どのようなシステムでポイント付与されるのか、具体的に教えていただきたい。

提案者（D－1）

五六市に利用できる一つとしてボランティアがあると思います。今まで参加されているボランティアに報酬が出せなかった所を、ポイントとして付与できるという方法を奈良ではやっております。また、ボランティアの募集という部分で奈良ポイントに参加してもらい、という告知の部分の要素が非常に高いのではないかと思います。

委員

システム的な話を私聞かせていただきましたのですが、例えば誰が端末を持って、どこでどの時点で付与されるのかということです。

提案者（D－1）

実際に事務局が端末を持って出向いています。端末自体はタブレットとWi-Fiを持っていきますので、その場で直接ポイント付与しています。奈良市では、事務局

だけでなく、市も同時にあちらこちらで事業を展開されますが、市の担当課の方でも簡単に付けることが出来ますので、一緒になって実施していただいております。

委員

その延長線上で、市民活動団体の活動に、ポイント付与ということも可能ということでしょうか。

提案者（D－1）

はい、可能です。このやり方としては、端末を貸し出すという方法と後付けという方法があります。利用者名簿一覧をいただいて、それを事務局に送っていただいて、後から付けるという方法も行っておりますし、臨機応変に対応するようにしています。

会長

他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。
これで質疑応答を終了させていただきます。ありがとうございました。

（提案者D－1退室）

会長

続きまして次の提案者の入室をお願いいたします。

事務局

それでは次の提案者につきましてはB－1となります。
よろしくをお願いいたします。

（提案者B－1入室）

事務局

説明時間は15分以内でお願いいたします。終了2分前と終了時間に事務局よりチャイムを鳴らしますので、説明を終えてください。それでは準備をお願いします。
それでは始めてください。

（提案者B－1説明）

会長

はい、ありがとうございました。それでは質疑応答をよろしくをお願いいたします。

委員

ポイント制度のご説明がありましたが、4つの種類に分けて、健康・ボランティア・子育て・街づくりと実施していくというスキームは、既に他市と取り組んでおられるのですか。

(提案者B-1)

実際には伊丹市さんと一緒にやっております。最初は、駐輪場対策として交通政策課さんと一緒に制度をスタートさせたのですが、翌年度からは健康政策課さんとの検診・受診の制度構築や、介護保険課さんとの介護ボランティアなど、段階的にポイント制度をプラットフォームとしてご利用いただいて、いろんな制度を上に乗せていく形が出来たので、そういった手法での運営を枚方市さんでも想定しております。

委員

4つを基本にして、他にも付け加えるような感じですか。

(提案者B-1)

まずは4つの事業に対して事業化を進めていくということをベースに考えています。ただプラットフォームとして色々な課題に利用することはできると思うので、それを段階的に拡大していくことはありえます。

委員

はい、ありがとうございます。もうひとつお聞きしますが、事業費の内訳の所で、Felicaのポケットアクティベート費、単価が一枚55円で20万枚だと1,100万円と結構な額になっております。これが特徴的だと感じておりまして、セキュリティ対策を考える上でということなのでしょうが、この必要性について教えていただけますでしょうか。

(提案者B-1)

まずですねFelicaポケットという仕組み自体は、既存のSUICAやPASMOなどのカードにも入っている仕組みになっておりまして、そのポケット領域を間借りするという考え方になっております。SONYさんのライセンスとして鍵を借りるという仕組みになっておりますので、枚方市のポイントとしてカードの中でポケットを分けるという作業に対して費用が発生いたします。仰る通り、セキュリティも担保される形になっておりますので、間借りするときに、そのセキュリティの鍵をいただく費用だと考えていただければと思います。

委員

わかりました。ありがとうございます。

会長

他いかがでしょうか。

委員

その利用するカードは SUICA でも PiTaPa でもなんでもいいのですか。

(提案者 B-1)

Felica ポケットという仕組みが入っているカードになりますので、関西ですと ICOCA には登載されておられません。ここに書いてあるように、大阪市営地下鉄の PiTaPa には掲載されている機能ではあります。利用する場合はカードの発行主体さんの許諾が必要になりますので、ここに記載があるようなイオンさん等に、枚方ポイントとしてカードを使っていいですかという許諾を得れば利用が可能です。

委員

限定をされるというものではなくて、本人が望めばある程度のカードは選べると考えてよろしいのでしょうか。

(提案者 B-1)

そうですね。利用者の方に関しては、自分がお持ちのカードを利用するという選択肢が可能なので、まずポイント制度のシステムを設計する上で、そのカードを利用できる状態にしておけば、利用者の方が既存のカードを使ってポイントを貯めるというのが可能です。

委員

それは技術的に簡単なものなのですか。

提案者 (B-1)

すでに我々が運営しているエリアでは実績があるので、枚方市さんにおいても、このカードの利用をお願いしますという交渉は可能です。

委員

伊丹でもそうなっているのですか。

提案者 (B-1)

伊丹市さんでもご当地 WAON や、おサイフケータイを使ってポイントを貯めている方もいらっしゃいます。

委員

今の質問の続きになりますが、伊丹市さんでも、ということでしたが、他に Felica ポケットを使って運営している所はありますか。実績はそこだけなのか、他の市でもあるのか。

提案者（B－1）

2 頁に記載がありますように、7つのエリアがあるのですが、伊丹市さんと静岡県
の自治体さんになりますが清水町さん、加古川市さんは官民協働で、この Felica ポ
ケットの仕組みを使って運営を行っております。

委員

それ以外は通常の IC カード、若しくは磁気カードという形でしょうか。

提案者（B－1）

すみません、ここに記載のある7つのエリアすべてで Felica ポケットの仕組みを
使って運営をしております。

委員

運営開始、2012年という所もそうなのですか。

提案者（B－1）

当初から Felica ポケットの仕組みを使って運営をしておりました。

委員

はい、わかりました。

委員

一番強調をしていただいていた、いろんなお店で使えるというのは商工会議所と
運営している地域情報サイトの登録事業者さんが主になると思いますし、7頁の所で
枚方市ポイント活用検討委員会の設置というのも提案されており、色々な意見を聞
きながらというのも非常に大事だと思います。そういった中で、市民の方が魅力
を感じて、それに参加していただくことを目指されるという部分がもうひとつよく見
えないと感じています。カードの配布に関しても、協力店舗での配布やイベントで
の配布という形になっているのですが、こういう方法で市民に魅力を発信できると
お考えですか。そのあたりをお聞かせ下さい。

提案（者B－1）

他市さんでも運営をしていく中で、ポイント制度に参加していく方をどのように増やしていくかという部分が課題となっています。制度自体がなかなか知られていないという部分が大きな課題になることが多いので、これは気軽に参加してポイントが貯められるお得な制度だということを、いかに市内でPRできるのかという所で、地域のお店を利用されている市民の方との接触点を増やしていくというのが重要だと考えております。そのためには、まずは協力店舗でのカード配布を中心に広報していくことを一つの方法として考えております。あのお店で貯められるであるとか、みんなで貯められるというのが、ポイントを貯める動機になるケースも非常に多いので、そういったお店をどんどん取り込んでいくという所が魅力向上において非常に重要と考えております。あとは、市の制度という所で、日常的に参加を促し、この制度に参加することによって何ポイントいただけるのかという所を、市役所の課題等をお聞きしながら、ポイント数の設定をしていくことによって、課題解決という所と魅力的な利用先がリンクして、魅力的な参加動機に繋がると考えております。

委員

二点質問させていただきます。先ほどのご質問の延長の話にもなりますが、御社は情報サイトも非常にお得意なので、そういう意味では広報力もお強いのだと思いますが、単にこういう制度が始まりましたという告知だと、なかなか協力店舗も利用者も増えていかないと思います。今までのノウハウとして、こういう形で実施すれば、より積極的に協力店舗も利用者も増えていくというアイデアがあれば、デザイン的な問題も含めて、教えていただきたいのですが。

提案者（B-1）

一番重要だと思うのは、どれだけ枚方市内での生活に根差している方々にアプローチできるかだと思っております。他市の事例では、人口3万3千人と小さい町なのですが、町民体育大会といった地元で日常的に毎年実施されているイベントでカードの配布やPRをスタートして、その日だけで1,000名以上の方に参加していただいたという実績があります。ですので、北大阪商工会議所さんと一緒にやれるという部分は一つの大きな強みだと考えてはおりますが、枚方に根差した既存のイベントですとか、色々なPR方法という部分、もちろん事業者さんも含めて、そういった所と連携して、まずはポイント制度に参加していただくために、地域に根ざした枚方市ならではの部分にアプローチしていくということが必要だと考えています。

委員

WEBデザインの、先駆デザイン的な部分で何か工夫などはありますか。

提案者（B-1）

もちろんいろんなターゲットの方がいらっしゃると思うのですが、地域の協力店

さんで配布していくという所においては、わかりやすさやポップさを中心にPRしていく、デザインしていくということが、他のエリアでは多かったと思います。

委員

私は、仕事柄地方創生をずっとやっているのですが、地方移住サイトなどを見ると、顔が見えるということが非常に重要ではないかと思っています。移住者の声がちゃんと聞こえるとか。ですので、例えば、利用者の声として何か広めていくとか、協力店舗さんの中でこういういい所があったよ、という形が具体的にでていった方が、より訴求力が出来て来ると思ったのですが。

提案者（B-1）

仰るように、我々も定期的に協力店舗さんに集まっていただいて、こういうお店でこういう手法でポイントを活用してお客さんがたくさんいらっしゃいましたよ、といった勉強会や交流会のようなものを積極的に開催して、加盟店さん同士の繋がりを作るとか、市民の方にPRをしていくために、コミュニティを集めたイベントを開催するなどの取り組みをしております。やはり顔が見える、知っている方が参加している、というのが参加動機になるので、そういった部分は枚方市内でも取り組めると考えています。

委員

二点目ですけども、商工業者との繋がりには商工会議所さんと連携が出来ていると思うのですが、市民活動団体さんとの連携などは、どのようにお考えでしょうか。

提案者（B-1）

商工会議所さんが実施している様々な取り組み、商業者をベースとした取り組みでもあるのですが、そこから派生するような団体さんへのアプローチもひとつだと思いますし、枚方市内でもまちゼミですとか、そういった取り組みが商業者さんベースで行われていることもありますので、そこをまずきっかけとして、市民の方にも市民活動団体さんにもアプローチしていきたいと考えております。

委員

今までの地域情報サイトのターゲットもどちらかというと商工業者さんがメインで、あまり市民活動団体さんへの情報というのは、サイトの方へは載せていないという感じですかね。

提案者（B-1）

商工会議所さんと取り組みを行っているという性格上もあると思うのですが、基本的には商業者さんから広告収入をいただくというビジネスモデルがあるので、

どちらかというとならぬ商工業者への情報の方が強いと思います。

会長

他はよろしいでしょうか。

それではこれで質疑応答を終了させていただきます。ありがとうございました。

(提案者B-1退室)

ここで、10分間の休憩を挟みたいと思います。

(休憩)

会長

それでは時間になりましたので、再開いたします。

次の提案者の入室をお願いします。

事務局

それでは次の提案者につきましてはE-1となります。

よろしく願いいたします。

(提案者E-1入室)

事務局

説明時間は15分以内でお願いいたします。終了2分前と終了時間に事務局よりチャイムを鳴らしますので、説明を終えてください。それでは準備をお願いします。それでは始めてください。

(提案者E-1説明)

会長

はい、ありがとうございます。それでは質疑応答をお願いします。

委員

導入事例の中でお隣の寝屋川市の商店街さんで既にポイント事業を始められているということでした。隣接しているという部分もありますので、寝屋川の事例を踏まえて枚方バージョンで、こういう工夫をしていくなど、魅力発信の部分で何かアイデアがあれば教えていただきたいと思います。また、協力店舗が独自で行う取り組みにおいて、それぞれの事業者のポイントを付与してもらうというのは、非常に

いい取り組みだと思うのですが、具体的にどのような事を想定されているのか、いくつか事例があると思いますので、教えていただければと思います。

提案者（E-1）

寝屋川市では、特に地域の安全・見守りに力を入れております。実際に使われているのは、カードの他にもお守りなのですが、このお守りはきちんと神社でお祓いをして、地域の方にお配りをしています。先ほどスライドのイメージにあったような端末機を設置させていただいて、高齢者の方もしくは子どもがこの端末にタッチをしますと、安心メールというものが、親御さんもしくはお迎えに来るおじいちゃんに届くという取り組みを、メインとしてスタートしております。また、実際にどういったポイントの発行を提案されますかという部分にあっては、この付与事業の実例として色々記載しておりますが、お祭りでのポイント付与、福祉行事でのポイント付与、または地域のコンサートというようなイベント型のポイント付与、その他、健康教室でのポイント付与を行っています、また、ポイント付与数にあっても参加するとこれくらい付与するなど、付与の仕方として実例はたくさんあります。

委員

それは行政ポイントですね。

提案者（E-1）

はい、そうですね。

委員

地域の事業者が付与するようなポイントもありましたよね。

事業者が単体でやるようなイベント等にもポイントをそれぞれ付与することが可能だと出ていたと思いますが。

提案者（E-1）

各店舗のイベントといたしましては、購入・来店ポイントがメインにはなりますが、ポイント2倍制度なども可能です。それ以外のイベントポイントといたしまして、誕生日の人をお知らせする機能や、曜日でこの日がポイント倍のセールだというお知らせを自動で行う機能もありますので、それに応じて店舗毎に自由にポイントの発行を行っていただくことができます。お客様が楽しめるゲームの機能もありますので、これを店舗毎、地域の商店街毎、もしくは枚方市全体で実施するなどによって、イベントポイントを付与していくこともできます。そういった事例が多いです。

委員

寝屋川市では見守り等を実施されているということですが、枚方ポイントで新たに付加するものなど、枚方の地域の分析の中からサービスの向上として枚方ポイントに付加したものなどがあれば教えていただきたい。

提案者（E-1）

失礼いたしました。枚方においては業務提案書に記載している、例えば健康診断の受診を増やすとか、そういった所でのポイント付与というものを提案させていただいております。

会長

はい、他いかがでしょうか。

委員

スライドですと10頁になりますが、左下にデータをクラウドにと記載しています。業務提案書の3頁には、「個人情報の住所・電話番号等は入力端末よりデータセンターに常時格納せず、次の最低限の情報のみ格納する」とあります。つまり、クラウドには個人情報をあまり置いていないということなのですが、個人情報はどこに格納するつもりなのでしょうか。

提案者（E-1）

個人情報に関しましては、もちろんクラウドの中にすべてのデータを持つということも近年一般的になっておりますので、その方法も可能です。ただ今回の提案の中では、登録用端末を複数か所と本部用に端末を置かせていただくこととなりますが、データの本体自体は、本部用のパソコンの中に格納させていただくという提案をしております。

委員

右下SPFサーバーのみに個人情報があると。

提案者（E-1）

はい、そうです。

委員

そのセキュリティ対策はどのようになっているのですか。

提案者（E-1）

はい、このパソコンのセキュリティに関しては、ネットワークに常時繋がらない形で対応しています。その他には、ウイルスソフト等でのセキュリティ対策を構築し

ております。

委員

常時繋がらないとはいっても、繋ぐ時もあるわけですよね。

提案者（E-1）

はい、そうですね。

委員

わかりました。

会長

他いかがでしょうか。

委員

カード自体は独自で発行するもので、他のカードと共通するようなものではないのですか。例えば交通系だとか。

提案者（E-1）

今回のご提案に関しましては、枚方市独自のカードを作成させていただく内容になっております。ただし、交通系のカードでありますとか、若年層にあってはカード離れが進んでいますので、カードを持たされるならもういいと言われる方もいます。そういった場合には、スマートフォンでの対応というのもご提案の中に入れさせていただいております。実際にはオリジナルのカードがひとつ、スマートフォンの対応がひとつ、その他、交通系のカードも利用するような形で対応したいということであれば、交通系のカードもタブレットの中でポイント処理をするような形のご提案も可能です。

委員

例えばストラップであるとかお守りは、別途持たなければならないということですか。

提案者（E-1）

健康イベントや買い物以外の用事で街に出るとか、高齢者や小学生に対して買い物に使うカードを持たせてピッとやるのは違和感があるという意見もありましたので、こういったお祓いをしたお守りを販売するなり、そういった方にお配りするという、要はファミリーカードのような機能でございます。このカード単独で使うのではなくて、カードはお母さんが持って、お守りをお子さんや高齢者が持つと、そ

ういう形にすると一緒の所にポイントが貯まるという方式になっております。サブ的な利用の仕方というのも可能になっております。

委員

現にそれは他の地域でも実施されているということですか。

提案者（E－1）

そうです。

委員

個人的には煩瑣な気もしますし、紛失のおそれもあると思うのですが、その点はいかがですか。

（提案者E－1）

もちろんカードにしてもお守りにしても紛失ということはありません。もし紛失された場合には、そこに入っている情報は使えないように止めるということがリアルタイムで可能となっております。

委員

はい、ありがとうございます。

会長

はい、他いかがでしょうか。

委員

私の方から何点か教えていただきたいのですが、今回のご提案は、商業系のポイントシステムに行政系のポイントが付加されるというようなイメージでお聞きしたのですが、今回のプロポーザルは逆に行政のポイントをうまく商業系のポイントに連動させられないかという提案だと私は認識しています。そういう意味で、例えば市民活動やボランティア活動の活性化とか、高齢者の外出支援であったり、健康づくり事業の推進であったりということがメインであるとは思いますが、そのあたりは行政側の委託を受けて考えていくということによろしいでしょうか。それとも積極的に何か提案をしてもらえるということはあるのでしょうか。

提案者（E－1）

はい、当社の方から提案をさせていただきます。と言いますのも、全国でも健康ポイントや自治体ポイントが流行りつつございまして、そういった所での発行事例を主にご紹介させていただきたいと考えています。その中でこれは適する適さない、

という最終的な判断は市と一緒に行っていきたいと考えております。

委員

それではボランティア活動の促進という点では、どのようにお考えでしょうか。ひとつ具体的な事例をあげていただければと思います。

提案者（E-1）

ボランティアといたしましては、実際にボランティアを自治体ポイントで発行しようという自治体がありました。その際には利用者にもカードを配って、そのカードをボランティア時に持って来ていただいてタブレットにかざすことで、ポイントを付与するという方法で、未経験の方にもボランティア活動に参加してもらおうとしておりました。しかし、実際にはタブレットを現場、例えばビーチや公園の清掃活動のボランティア活動時に持っていきたくない、落とすたくないという声がありました。それを受けて、事前に責任者が発行した有効期限のついたレシート、これはセキュリティもかかっているコピーしてもできないようなレシートになっているのですが、それを事前に数百枚、例えば250枚発行して現場に持っていくことで、捨てられても問題ありませんし、そのレシートをお店に持って行って、タブレットにかざすことで、消費者は手ぶらでボランティアに来れるというものです。

委員

私がお聞きしているのは、そういうシステム的な部分ではなく、ソフトな、運用の話なのですが。そういうボランティア活動と言ってもピンキリですよ。それをどのようなボランティア活動ならポイントを付与する、あるいはこういうようなタイプだとポイントを付与しないというような、そのあたりの基準のようなものがあるのかということをお聞きしたいのですが。なんでもかんでも申請すればポイントを発行するという話なのか、あるいは質的なものを問うのか、そういうソフトな、運用部分の話をご提案いただきたいのですが。

提案者（E-1）

失礼いたしました。その活動についてのポイントの付与率というのは、年々、他の自治体でも検討されておまして、こういった活動に対してはポイントを付与する、これは付与しすぎじゃないか、これに関しては付与するべきではないのではないか、という検討事例があがってきておまして、実数値としての実績はございますので、それらを参考に適すのか適さないのか、枚方に合うのか合わないのかという部分を検討していただく、というご提案をさせていただいております。

委員

それはほとんどが、市主催のボランティア活動でしょうか。

提案者（E－1）

はい、市です。

委員

市民活動団体が実施されているボランティア活動はポイント付与をされていないのでしょうか。

提案者（E－1）

実績でいきますと、「町、村、市」という実績になっております。

委員

もう一つ、業務提案書の自主運営体制の中で、現地委託会社という記載がありますが、これをもう少し説明いただければと思います。

提案者（E－1）

委託会社というのは、地域のフリーペーパー等を扱っている個人会社があります。

委員

枚方での運用はそこに委託すると理解してよろしいでしょうか。

（提案者E－1）

運営ではなくて、事務委託という形を想定しています。

委員

例えば、トラブル等の窓口はそこでは処理をせずに、御社の方に直接いくという形になるのでしょうか。

提案者（E－1）

サポートに関しましては、業者で行う提案をさせていただいております。勿論、当方にはサポートの担当の選任の委員がおりまして、ある程度これまでの実績の中で、業務端末を扱っている方々からのご質問だとか、そういった質問はすべてシステム化されておりますので、一時窓口としては当社を予定させていただいております。事務局の委託先予定については、直接訪問をしていただくとか、直接の連絡窓口という役割で、事務局及び業務端末を扱うみなさまからの受付体制をとる予定です。

委員

最後になります、委託会社の方がサーバーを操作されるということでしょうか。

提案者（E－1）

その予定でございます。

委員

その方々の情報セキュリティの教育は十分されていると考えてよろしいでしょうか。

提案者（E－1）

はい、十分させていただきます。

委員

「いただきます。」というのは、これからということでしょうか。

提案者（E－1）

どのように実施するかという体制は決まっております。

委員

はい、ありがとうございます。

会長

他いかがでしょうか。

それでは以上で終わります。ありがとうございました。

（提案者E－1退室）

会長

それでは、次の提案者の入室をお願いします。

事務局

次の提案者が最後になります。次の提案者はC－1となります。

（提案者C－1入室）

事務局

説明時間は15分以内でお願いいたします。終了2分前と終了時間に事務局よりチャイムを鳴らしますので、説明を終えてください。それでは準備をお願いします。

それでは始めてください。

(提案者C－1説明)

会長

ただいまより、質疑応答に移らせていただきたいと思います。ご質問いかがでしょうか。

委員

事業費を確認させていただきたいと思います。ご提出いただいた最後の資料になります。画面で出していただいても結構です。

事務局

プレゼンの資料ではなくて、業務提案書として提出いただいた資料はありますか。

委員

こちらで、2020年度と2021年度、網掛けの部分ですけれども、事業収益より捻出ということで、事業費をノーカウントとして計算が成り立っているのですが、まずどうしてこういう建付けになったのかお聞きしたいと思います。

提案者（C－1）

目的の一つに自主運営がありました。様々な事業を組み立てていく中で200店舗300店舗が集まった際に、0.7円の運営収益でポイント事業として運営出来ると算定しております。過去様々な商店街さまがこの0.7円で運営しております。今回、枚方市さんは市からの補助が出るという形ですが、他の地域では補助がないまま0.7円で運営をしておりますので、一年目二年目、市から補助を受けることによってそこで運営費をプールし、そこから三年目、販促費を運営費から出し、四年目にはすべて自主運営できると考えております。

委員

本来的に事業費の開示を求めたというのは、総事業費がいくらかかるかというのを承知したいからだと思っております。ですので、こういう形で事業費の一部を収益から当てますという考え方ではなくて、これも含めてグロスでカウントするべきものだと思います。そう考えると、2020年度に280万円、2021年度は700万円とありますので、税抜きで980万円が事業費から除かれている計算になります。それを元に戻して、事業費として980万円に消費税を加えた価格で、私たちは審査をしていくべきではないかと思っております。よろしいでしょうか。

提案者（C-1）

弊社の考えとしては、自主運営に切り替えるタイミングですね、自主運営される事業者が、このまま採択された運営会社になるのか、別の会社になるかはわかりませんが、事業の収益の中から四年目以降もやっていくという形になると思うので、そのあたりの運営シミュレーション、つまり準備ができないのではないかという考えで、最終年度は運営費、ポイント共通事業とはこういうものですよ、という弊社の考えの中から算出させていただいたという形なので、さきほどの金額を組み込んでいく考えというのは、審査の中の考えとして仕方ない部分もあるかと思うのですが、1億5千万円の予算の中で、弊社がいかに自主運営に向けて準備しなければならないか、立ち上げるためのシミュレーションをしっかりと行って、5年後に新しい運営会社に引き渡せるか、というところを考えた試算になっております。そういった部分を考慮していただけたらと思っております。

会長

他いかがでしょうか。

委員

システムで、AWSが使われていると記載されています。多くのエリアで実績がおりだと思っておりますが、サーバーで同居するという運用になるのでしょうか。独立になるのでしょうか。

提案者（C-1）

弊社の中では独立したものです。

委員

18頁のスライドになりますが、他のシステムとの連携支援ということでAPIを準備と記載されています。APIを提供してなにかサービスを実施されている事例はあるのでしょうか。

提案者（C-1）

これにつきましては現時点では、提供しておりません。自治体ポイントクラウドについては話をさせていただいておまして、具体的な実施時期などは決まっておきませんが、一応計画しているところでございます。

会長

はい、他いかがでしょうか。

委員

枚方市は地区単位である程度地域性も違う、という話をされていて、運営は地区単位でやっていく、尚且つ、各地区にパートナーを置いて、協働するというご提案ですが、地区単位というのはどれくらいの数を想定されていますか。

提案者（C－1）

枚方市には、京阪 8、JR 3 の 11 駅あります。商店街も複数ありますので、だいたい 15 前後の地区割りを考えております。一号線から西側の地区は京阪沿線として分けていき、東側に関しては、JR もしくはその間の地区、例えば田口地区、氷室地区など、だいたい 15 団体くらいがいいのではないかと考えております。

委員

今、説明のあった 15 の中で、それぞれにパートナーを置いていくということでしょうか。

提案者（C－1）

出来ればそういう形で置いていきたいと思っております。

委員

実現していくことは可能なのでしょうか。

提案者（C－1）

私は地元ということもあり、色々な方にご意見を聞きながら進めさせていただいておりました。採択されましたとは言えないので、そこまで確実な話はさせていただいておりませんが、地元民としての特性を活かしまして、この地区ならこの団体にお話ができる、などの想定をしておりました。15 地区、すべて集まるのかと言われると難しい部分ありますけれども、10 近くは集まるのではないかという感触は得ております。

会長

はい、ありがとうございました。他いかがでしょうか。

委員

すでに泉佐野や柳川、根室等で実施されていて、まだ日にちは経っていないのかもしれませんが、何か問題点や感想があればお聞かせください。

提案者（C－1）

正直、立ち上げ当初はいろいろあります。通信の問題で、例えばモバイル通信が au は使えるけど docomo は駄目だったとか、そういう部分はどうしても他社に依存し

ておりましたので、問題はありました。そのあたりを各協力店、加盟店さんや市の職員さん、商店街のみなさんと協力しながら乗り越えてきたという形であります。また、柳川に関しても、また家庭会とかそのような方が動いていただいて、かなり活性化されたと思います。システム的には、今まで培った端末サービスからクラウドに変わってきましたが、このあたりは商店街の事業に特化した形になっておりますので、運用的には満足していただいていると思います。正直、今は落ち着いておりますが、当初、通信面は自分達ではどうしてもできないところがあったので苦労しました。

委員

ポイント利用がうまく回らないとなれば、これは運営会社の責任になってくるかと思われま。そのあたりは思い通りに進んでいるのでしょうか。

提案者（C-1）

ポイント利用に関して、企業さんのポイントというのは、2~4倍ポイントなどの回収イベントというのが少ない印象です。商店街さんは、そういったことを昔から実施されておられて、回収のイベントがものすごく上手です。自店でも努力されていたり、会全体での回収イベント等も行いますので、商店街や地域で実施した場合の回収率は、大手のカード会社より高くなっております。そこは、今までのノウハウでありますとか、他社の事例を持って来る、あとは勉強会等でいろんなことの情報共有しながら、進めてければ枚方市も成功するのではないかと考えております。

会長

他はよろしいでしょうか。

委員

私の方から一点お聞かせ願いたいのですが、K P Iを導入するというのは目標としては非常にいいと思うのですが、商業系ではなくて、今回行政のポイントというのがひとつ大きな柱になると思います。行政のポイントとしてのK P Iというのは、どういう形を想定されていますでしょうか。

提案者（C-1）

提案書では加盟店さん側の立場で考えておりました。行政側から考えますと、他の地域でも課題となっておりますが参加率ですね。ポイント付与というのは、参加する事業によって5ポイントいただいたり、100ポイントいただいたりする形になると思いますので、やはりカードを使った参加率というところに重きを置きたいと思っています。参加率イコール市の事業の認知になると思いますので、参加率でみてい

きたいと思っております。

委員

参加率というのは、分母が何で分子が何になるということでしょうか。

提案者（C-1）

事業に対しての参加人数というものは、行政の方で決められていると思います。その数字をもらって、その中でどれだけ参加しているかということと、もうひとつはカード会員全体の中でどれくらいの参加率があるかを見ていくと、市が実施する事業の認知度が見えてくると考えております。

委員

なぜ今の質問をさせていただいているかということ、これは非常に難しい問題で、本来こういうポイントみたいな物がなくても、参加率が上がっていくというのが本来の目的です。逆にポイントがなくても参加出来る方がこちらに移っていくということになってしまいますと、ある意味本末転倒になってしまいますので、必ずしもポイントを使ってもらうこと自体が、行政ポイントの利用としてのKPIにはならないのではないかと。このあたり、非常に難しい問題だと思っておりますので、確認させてもらった次第です。

それともうひとつ、全然違う話ですが、カードデザインを大学生や高校生から公募するという説明がありましたが、なぜ大学生や高校生なのでしょう。

提案者（C-1）

枚方には大学が5大学ありますので、消費ができる若い世代、16~22才というところをターゲットにしたデザイン募集が効率的と判断し、提案いたしました。

委員

デザイン審査はどのような形でされるのでしょうか。

提案者（C-1）

事務局である程度候補を絞らせていただいて、後は一般的な考え方で決めていきたいと考えております。

委員

なぜ、このようなことをお聞きするのかと申しますと、私はデザインもする立場なのですが、必ずしも素人デザインが良いデザインとは限らないです。そういう意味では、デザインを安易に公募して選ぶというのは、本来的に良いのかどうかという議論もあるのではないかと思います。何か深い意味があるのであればと思、

お聞きいたしました。

提案者（C－1）

市民参加で、これから始まるという意識付けの意味で、実施したいと考えております。

委員

だとすると、一般市民の公募という選択肢もありますよね。高校生や大学生に絞らなくてもいいのではないのでしょうか。

提案者（C－1）

採択後に、きちんと立て直したいと思います。

会長

他いかがでしょうか。それではこれで終了とさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

（提案者C－1退室）

会長

ヒアリングは以上になります。それでは、この後の進め方について事務局より説明をお願いします。

事務局

みなさま、どうもお疲れ様でした。この後の流れですが、若干のレイアウト変更の後に、委員の方々にありましては、このあと審議を行っていただきます。恐れ入りますがレイアウト変更を行いますので、一度ご起立いただけますでしょうか。

（レイアウト変更）

事務局

会長、よろしく願いいたします。

会長

それでは、次第3．提案審査の実施ですが、ここからは、最優秀提案者と優秀提案者を選定する審議となりますので、よろしく願いいたします。

まず、各委員において、ヒアリングの感想や、理解しづらかった提案箇所、専門分野などにおける意見交換を行った後に、最終採点を実施したいと思いますので、

よろしくお願いいたします。

委員

感想というか結論的なストレートな部分でお話をしたいと思うのですが、5者のプレゼンを聞きまして、審査項目でいうと18の積算価格及び積算の妥当性、この妥当性で2者の採点を1といたしました。ひとつがA-1、もうひとつがC-1です。A-1は提示されている価格が枚方市の委託上限額と全く同じでした。尚且つ、A-1だけ、消費税がどういう処理をしているかが不透明であったので、質問をしました。消費税を含んでいるということでしたので上限額は超えておりません。けれども、この金額ありきの積算になっているという印象を強く持ちました。

もう一方のC-1は、先ほども質問をいたしました、C-1だけが事業費の一部を収益と相殺して減らしておりました。他の提案者はどこもしていません。手数料等で、これだけ収益が上がりますという説明があっても、それと費用を相殺して事業費を少なくするというのはしていないのですが、C-1だけがしています。これを相殺するのではなくて、相殺する前の状態に戻して積算しますと、上限が1億5千116万9千円を超えるという事情を考慮し、採点をつけました。

各提案者、説明の仕方は様々で、導入事例もあり、そこをアピールするプレゼンが多かったのですが、それだけではなく、枚方市独自仕様をどう考えるのかというところに関心を持って聞いておりました。以上です。

委員

私は何か特定の基準をもっていただけではありませんが、できるだけ参加者が増えて、利便性の高いものが市民に浸透しやすいと思いましたので、既存のインフラを利用するという意味ではA-1に強みがあると思いました。その他としては、ヒアリングの印象では、E-1に好感を持ちました。どの提案でもある程度のクオリティは担保されるのではないかと感じました。

委員

私はこのポイント事業を広く市民の方に使っていただかないと意味がないと思っています。A-1はあまり労せず事業を展開できるのかなという気はしました。しかし、それはA-1の事業発展には大きく貢献するとは思いますが、本来の目的である市の魅力発信とは、すり替わってしまうのではないかと思います。逆に、B-1、E-1は商工会議所、商業連盟さんを巻き込んで、地域の事業者と一体になってやっていくという、一からの手作り感的な部分もありますが、その手法の将来性に期待できるのではという思いもありました。

また全体的には、他の地域ではいろんな実績があるとの説明はありましたが、そこから枚方市バージョンに合わせて、地域をよく分析していただいて、その課題の解決のためにこういう提案をした、という部分が見えない提案も少なくありません

でした。そういったところに消化不良を起こしている部分もありますが、そんな目線で、私は評価をさせていただきました。

委員

システム構築には3項目の評価の視点がありまして、その中でもセキュリティ対策の配点が高かったので、そこに重点を置きました。感覚的にB-1、C-1のシステムはよく出来ている、標準的な物だと思います。D-1、E-1は少し規模が小さい対象のサービスかなと感じました。A-1に関しては、大規模な独自のシステムができあがっていると思いますので、よくできたシステムなのだろうと想像できますが、それに相乗りしてしまう形になりますし、紐付けが前提のシステムでしたので、上手く情報がそちらにも使われるのかなという感覚を受けました。

委員

私は、大きく二つのタイプに分かれたと思いました。いわゆる商業ポイントをやっている業者がそれに行政ポイントを付加していくというタイプですね。具体的には、A-1、C-1、E-1がそれに当たると思います。行政ポイントを中心に考えてくださったのが、B-1、D-1だったと思います。個人的には、本来、枚方市役所が求められているのは、B-1、D-1のような行政ポイントをまず考えて、貯まったポイントの利用として商業ポイントを利用させてもらう、というストーリーだと思いましたので、そういう意味でA-1、C-1、E-1は逆になってしまっているという部分が少し心配になりました。また、そのアピールも商業ポイントのアピールばかりが表に出て来ましたので、行政ポイントは行政任せになってしまう危険性があると感じました。特にE-1は行政ポイントの部分で、ポイントレシートを発行するという提案でしたので、非常にプリミティブなやり方だけでOKなのかというのがとても不安になったというのが、私の印象です。

逆に、B-1がしっかりとこの提案の趣旨を読みこなしていて、システムの、デザイン的にもとてもうまい。若いスタッフなのですがそのあたりの理解力、デザイン力やシステム構築力が巧みだったという印象を持っています。一緒に考えていくパートナーとしては、あれだけの理解力を持っていると、こちらの目的もある程度理解してもらえらるだろうし、伊丹でも実績を持っているので、そういう意味では非常にB-1に好感を持っています。D-1も奈良での実績を持っているので、そのあたりはお任せをしても大丈夫と思いますが、B-1に比べて理解力が若干見劣りしたような印象です。

A-1は、先ほど他の委員からもご指摘をいただいたように、カードの紐付けをされてしまうと、既存カードの力が強いので、そちらに引っ張られてしまうのではないかと、という印象を受けました。安定感もありますし、実績も非常に十分だと思うのですが、枚方市独自という観点での提案があまりなかったと感じています。行政提案も出来る会社だと思いますので、もっと枚方市に貢献してくれる提案だった

ならば、安心出来たと思いますので、非常に勿体ないと感じました。

会長

一人ひとりご意見をお聞きしましたが、何かお互いに情報交換をしておきたいことはございませんでしょうか。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは最終採点をお願いいたします。みなさま各々のパソコンに自己入力という形になりますので、よろしくをお願いいたします。

(審査シートに採点を記入→事務局集計)

会長

はい、ありがとうございます。点数でいうと、B-1が76.36で1位、D-1が73.88で2位、E-1が71.56で3位、以下4位、5位となっておりますので、最優秀提案者がB-1、優秀提案者がD-1という結論になりますが、ご異議ございませんでしょうか。

それでは最優秀提案者がB-1、株式会社フューチャーリンクネットワークさん、優秀提案者がD-1、株式会社フューチャーヒットさんとさせていただきます。

次に、講評ということで各提案者について委員の皆さんから何かありましたらお願いいたします。まずは最優秀提案者のB-1、フューチャーリンクネットワークさんはいかがでしょう。

委員

非常に理解力があり、4つのポイントプログラムに分けるなど、全体的に明快な制度構築をされている。情報システムも非常にわかりやすい明快なシステムを構築されている、というところで非常に好印象を持ちました。

会長

よろしいでしょうか。

それでは続きましてD-1、フューチャーヒットさんですが、いかがでしょうか。

委員

B-1、C-1というのは大きく規模を持っていて、端末に関してもセキュリティを考慮しているという印象を受けたのですが、D-1は端末からのアクセスはコントロールされているが、端末自体のセキュリティコントロールが少し考慮できていなかったと感じました。セキュリティのレベルの違いは多分対象事業の規模を小さく見積もっているのかと思うのですが、それほど差はないかと思います。評価点も11点前後で並んでいて、妥当な評価と思います。

委員

D-1は理解度のところが若干低く評価されています。B-1とD-1の提案というのは、先ほど委員も仰っていたように、それ程遜色はないと思うのですが、提案のまとめ方を見ると、B-1の方が理解をして、それをうまく提案に繋げていただいている印象です。D-1は確かに奈良の実績はあるのですが、奈良の実績のみが強調されてしまい、それを発展させた枚方市独自のポイント制度の提案という部分で、少し物足りない印象を受けました。奈良の実績を踏まえた、新たなプラスアルファでの提案というのがもっと欲しかったという感じがします。現場において、人とのつながりを大切にし、丁寧な対応を心がけている部分は好印象でした。

会長

それでは続きましてE-1ですが、いかがでしょうか。

委員

ここは少し商業系が強すぎるという印象を受けました。商業ポイントに行政ポイントを付加するという提案になってしまっていたので、行政ポイントがまず表に出て、それに対して商業ポイントを付加していくという提案を求めていたはずなのですが、そのあたりが提案として逆転してしまっていた。そういう面も含めて行政ポイントに対する提案を求めたのですが、それに対する明快な回答も得られなかったというところです。市役所が言われたらやります、あるいは他のところでやった実績を説明します、というようなところに留まってしまっていたので、行政ポイントをいかに活性化していくかという提案がもっと欲しかったです。

会長

それでは続きましてC-1ですが、いかがでしょうか。

委員

本来の考え方でいうと、予定価格を超えてしまう提案になってしまったという部分がありました。委託上限額を前提に事業費を組み立ててきているという印象も受けたので、この辺りの見積もりの仕方というのが課題であったと思います。

委員

C-1は実績もおありなので、一定の安定感は感じられたが、市民のまちづくり活動への参加意欲さらに高める仕組みなどの部分で少し物足りない印象を受けました。

会長

それでは最後にA-1ですが、いかがでしょうか。

委員

A-1は、非常に強力なポイントを回していらっしゃるの、そういう意味ではしっかりと運営を実施していただけるという印象は受けました。逆に、枚方市ポイント制度の独自性の部分の提案がやや手薄な印象を受けました。

会長

全体を通しての意見や、今後の運用に向けて、具体的にはB-1、フューチャーリンクネットワークさんと進めていくことになると思うのですが、これに対して何かご意見、ご要望も含めてあればと思いますが。いかがでしょうか。

委員

市民活動団体とのネットワークをどう考えているかという質問で、具体的に聞いたかったのは、市民活動センターとの連携、商工会議所との連携によって、非常に効率的に市民活動団体と連携出来ると思っています。ですので、市民活動センターも、今後このポイント制度の中ではパートナーシップをしっかりと持って進めていただきたいと思っています。

会長

後はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは講評の準備が出来ましたので、事務局で取りまとめていただき、委員全員に確認をしていただいた後、審査結果報告書として市に提出をさせていただきたいと思います。この後は答申を行いますので、準備が整うまで休憩とさせていただきます。

(市長入室)

会長

平成30年6月15日

枚方市長 伏見 隆 様

枚方市ポイント制度事業者選定審査会 会長 久隆浩

枚方市ポイント制度事業者の選定について(答申)

平成30年4月10日付政企第2号で諮問があった「枚方市ポイント制度事業者の選定」について、評価基準に基づき厳正に審査した結果、下記のとおり最優秀提案者及び優秀提案者を選定しましたので答申します。なお、最優秀提案者等の選定にあたっての評価内容については、平成30年7月中旬に審査結果報告書として提出します。

1. 最優秀提案者等

最優秀提案者：株式会社フューチャーリンクネットワーク

優秀提案者：株式会社フューチャーヒット

2. 評価点

当審査会では、評価基準に基づき、提出された業務提案書等を厳正に審査した結果、別紙のとおり評価しました。以上でございます。

(会長から市長へ答申書を手渡し)

事務局

それでは、ここで伏見市長のご挨拶がございます。伏見市長、よろしく願いいたします。

伏見市長

事業者選定審査会の皆様におかれましては、このたびは答申をいただきまして謹んでお受けしたいと思っております。ありがとうございます。久会長を始め、委員の皆様におかれましては、公私ご多忙の中、この審査会にご参加をいただきまして、様々な視点から貴重なご意見、お考えをいただきました。誠にありがとうございます。また、本日は長時間に渡りまして、熱心な審査の上優れた事業者を選定していただきました。重ねてお礼申し上げます。今回諮問をさせていただきました、本市のポイント制度につきましては、高齢者の外出支援や、市の様々な取り組みに対する市民の参画ということで、本市といたしましても大変新しい試みで、多いに期待をしているところでございます。今回皆様方に審査をしていただき、選定していただきました事業者の提案をしっかりと受け止めさせていただきます。本市の発展に繋がっていきたくて考えております。結びになります。審査会で選定をしていただきました皆様方には大変有難く感謝を申し上げますと共に、今後審査会の皆様におかれましても、それぞれの分野でのご活躍を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

事務局

久会長をはじめ、委員のみなさまには長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。

なお、本日の会議録及び審査結果報告書につきましては、委員のみなさまに確認いただいた後、市のホームページにて公表する予定とさせていただきます。本当にありがとうございました。

以上で第2回枚方市ポイント制度事業者選定審査会を終了いたします。お疲れ様でした。

(最後に市長と委員全員で写真撮影)

